

施策・基本事業評価表

優先度：成果＝中。財源＝低。●道路・水路課

番号	施策名	施策の対象	施策のねらい	区分	施策の成果指標	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
1-6	道路整備による 利便性の向上	市民、道路	道路ネットワークの整備 と適正な維持管理で、 円滑な通行ができてい る。	成果	幹線道路について満足 している市民の割合(%)	74.4	74.5	75.1	76.1	78.6	85.8	85.3	▲	85.0	▲	横ばい	前年度から0.3ポイント減少している が、ここ数年増減が微小な変動であり 横ばいである。 しかし、④⑤の満足部分をみると、 2.3ポイント上昇している。 これは、国道442バイパスや八女イン ターへのアクセス道路が供用開始を 迎え、旧道等からの交通量が転換して いくことで渋滞緩和することや、幹線市 道等の整備推進で利便性が向上し、 今後、満足度の上昇が見込めるもの と考えられる。	現在事業中の山ノ井長浜線、富安村 内竹延線を平成27年度供用開始する ことを目標に整備する。 また、欠塚新溝線、蔵敷水田線及び 県から移管を受けた新溝山ノ井旧県 道線等の幹線を整備することで、国道 442バイパスや八女インターへのアク セス道路との利便性を向上させ、広域 的な交通ネットワークの確立が急務で ある。 そのためには、進捗管理や供用開 始目標達成が必要である。 国県等との事業調整や用地交渉を 推進することが必要である。 また、幹線道路整備を整備推進して いくため、交付金等を活用し、大規模 事業としての総合的な進捗管理を行 いながら事業推進を図る。
				成果	生活道路について満足 している市民の割合(%)	66.8	70.5	71.5	70.4	74.7	76.6	74.5	▲	73.1	▲	横ばい	前年度から1.4ポイント減少してい るが、ここ数年増減を繰り返しており横 ばいである。 ポイント低下としては、市民からの意 見として、「舗装が傷んでいる、通学路 等の道幅が狭い」等の意見が多く挙げ られているのが要因だと考えられる。 しかし、生活道路の今後の重要度とし て、④できれば力をいれて欲しい、⑤ 力をいれてほしいの重要視している意 見が47%で昨年より3ポイント上昇し ているので、今後も進めていく必要があ ると考えられる。	生活道路の整備に関する要望書が 毎年多数寄せられるので、優先順位 を明確にし、効率よく効果的な整備を 推進していく。 また、市道以外の道路(私道等)につ いても、国の補助事業を活用し財政負 担を軽減し、より多くの生活道路整備 ができるよう取り組んでいく。

番号	基本事業名称	基本事業の対象	基本事業のねらい	区分	基本事業成果指標	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
01	幹線道路の整備促 進	市民、道路	・道路のネットワーク化 などにより渋滞緩和な ど、幹線道路の利便性 が向上している。 ・歩道や分離帯の設置 など安全整備が充実さ れることで、幹線道路で の交通事故が減少して いる。	成果	東西の朝の通勤時間の 通過所要時間(四ヶ所 (界橋)→長浜(八女イン ター入口交差点))(分)	15:0	15:0	16:0	11:0	14:0	11:0	11:0	10:0	11:5	10:0	横ばい	17年度からは順調に推移してきてい たが、ここ数年は11分ほどとなっており 横ばいである。 国道442号バイパス全線開通に伴い 旧道等から交通量が転換している最 中と想定され、転換が完了すること で、さらに交通渋滞の緩和が図られ る。	県事業での国道442バイパス片側2 車線化とともに、旧国道442号の交差 点部改良や、県から移管を受けた道 路等の整備により、円滑な交通ネット ワークを構築を図ります。
				成果	南北の朝の通勤時間の 通過所要時間(船小屋 (船小屋温泉大橋北端) →一条(ヤンマー農機入 口))(分)	20:0	20:0	19:0	18:0	18:0	19:0	16:0	15:0	19:6	15:0	横ばい	ここ数年は増減があり、18~19分で 推移しており横ばいである。 国道209号の未整備交差点及び南 北の幹線的市道の整備を実施するこ とで交通渋滞の緩和が図られる。	国道209号の交差点改良事業等の 事業促進を図るため、関係機関との事 業調整等を行う。 また、市道事業については、市の負 担を軽減するため、できるだけ補助事 業や交付金等の活用を検討していく。
				社会	幹線道路(国道・県道)で の交通人身事故件数(件)	295	298	268	239	243	256	86	275	273	▲	横ばい	事故の発生件数は長年200件以上で 推移しており横ばいである。 国道442号バイパスの全線開通に伴 う旧442号からの交通量転換によっ て市街地での件数は減少傾向となるこ とが期待される。	危険箇所の解消に向けて警察や国 県と連携して、歩道整備や交差点改 良事業等を推進していく。整備推進に は、市の負担を軽減するため、できる だけ補助事業や交付金等の活用を検 討していく。

番号	基本事業名称	基本事業の対象	基本事業のねらい	区分	基本事業成果指標	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
02	生活道路の整備推進	市民、道路	<ul style="list-style-type: none"> 生活道路の効果的な整備により利便性が向上している。 歩道の設置などで生活道路での交通事故が減少している。 	成果	生活道路整備(補修、改修)延長(累計)(km)	-	-	-	310	578	974	1216	-	1793	1400	目標達成	整備延長は、微増ではあるが順調に伸びており、目標を達成している。今後は目標値を上げて整備を推進していく。	国の補助事業等を活用し、効率的に維持補修を進めていく。
				成果	生活道路(私道等)での交通人身事故件数(件)	232	212	207	224	184	125	146	225	142		横ばい	生活道路の人身事故件数は、ここ数年減少率がにぶっており横ばいである。今後も、交通安全施設の整備、道路整備を推進し、警察と市民が協力し、安全・安心のまちづくり活動の推進を図ればもっと減少することが期待できる。	危険箇所の解消に向けて警察と連携して、事故多発箇所、危険度の高い箇所を重点的に整備していく。また、市民と協働による安全・安心のまちづくりを進めていく。
				成果	(参考)生活道路機能の苦情・要望への対応率(%)	67	67	57	42	44	85	91	95	76	85	横ばい	要望書に対する対応率は、毎年若干の変化はあるものの横ばいである。しかし、ここ数年要望件数が減少しているため、より効率的に維持補修工事を実施することにより、対応率を上昇することが期待できる。	国の補助事業等を活用し、効率的に維持補修を進めていく。
				代替	(参考)生活道路機能に関する苦情・要望件数(件)	27	15	21	19	13	159	105	150	87	100	横ばい	要望件数は、ここ数年をみると若干減少傾向にあるが横ばいである。	国の補助事業等を活用し、効率的に維持補修を進めていく。